



花は咲く…そして未来へ

あの感動の卒業式から10日あまり…。ふと気づけば、もう学校は年度の終わりを迎えようとしています。今回で72回目を迎えた本校の卒業式は、3月14日木曜日、早咲きの桜と暖かな日差しに包まれて行われました。

送辞では、在校生を代表して矢部愛莉さんが卒業生への感謝の気持ちを伝えるとともに、アンジェラ・アキの「手紙～拝啓15の君へ～」の歌詞に綴られた思いを卒業生へのエールとして送りました。答辞では、卒業生を代表して元生徒会長の山口哲平君が、みんなで様々な行事を乗り越えてきたことの意味に加え、今までの船橋中学校になかった生徒会活動の形を取り入れたこと、そして「平成最後の卒業生」として「時代の先駆者となる」ことを壇上から誓ってくれました。その後、送別の歌・卒業の歌の順で、卒業式の凜とした空気の中、在校生・卒業生それぞれの思いのこもった歌声が体育館中に響きました。近年、卒業式ではいろいろな曲が歌われるようになってきましたが、本校では昔ながらの「揚げば尊し」を、アカペラで歌っています。無伴奏なのでなおさら感じるのかもかもしれませんが、卒業の歌では男子の低い声が荘厳に響き渡りました。重厚なハーモニーを聞きながら、保護者の皆様は中学校三年間の成長をしみじみと感じられたことと思います。最後は千人を超える人数で歌う全校合唱「大地讃頌」を管弦楽部の演奏で歌い終え、348名の生徒が巣立っていきました。

生徒達は、卒業式後も3月31日まで本校に籍があり、3月いっぱいはまだ船橋中学校の生徒です。管弦楽部は例年3月下旬に特別演奏会を行っており、今年度は卒業式の一週間後、21日春分の日習志野文化ホールで開催しました。大勢の保護者の方や生徒達が来場し、講師を初めとする関係者の方々、これまでお世話になった地域の皆様もお迎えしての2時間以上にわたる、迫力の演奏会でした。管弦楽部の3年生は、例年この演奏会を終えて晴れて「卒業」となります。すべての演奏を終えた後の、管弦楽部部長・大里芹菜さんの涙ながらの挨拶に、ステージ上の3年生も溢れる涙を止めることができませんでした。

また、先週はソフトボール部が関東大会で準決勝までコマを進め、野球部は市長杯大会で決勝まで勝ち進み、優勝は逃しましたが大健闘でした。その他の部活でも1年生大会や冬季大会、そして、初めて試合に出場した生徒の姿や応援を頑張る姿等も見ることができました。

様々な場面で「勢い」を感じる今の学校の姿こそ、3年生が目指した「より良い船橋中」なのではないかとあらためて感じています。そして、どの会場にも大勢の保護者の方が来てくださっていて、嬉しい限りでした。この一年間、子ども達と過ごす中で嬉しかったことは本当にたくさんありました。少しでも多くこの紙面に載せたいと思いましたが、紹介できたのはほんの一部だった気がします。子ども達は、みんな自分の選んだ場所で、懸命に咲こうとしています。ですから、これから先も今まで以上に学校や会場へ足を運んで、子ども達が花開く姿を見届けてほしいと思うのです。その姿は今その時しか見ることはできません。時にはいつまでも蕾のままなかなか咲かなくて、見ていてもどかしくなることもあるかもしれません。でも、自分自身の選んだ場所で、不器用であっても懸命に咲こうとしている姿こそ、ぜひ見届けてほしいと思います。1年間ご愛読ありがとうございました。